

サステナブルにファッションを楽しむには？

フェアトレードカンパニー株式会社 広報・啓発担当 鈴木 啓美

1. はじめに

「ファッション」というと、言葉のイメージから「オシャレ」「流行」と同義にとらえられ、特に興味を持たない多くの人が「私には関係がない」と考えています。しかし裸で生活している人はおらず、服を着ている以上、誰にでも関わりがあることです。服が大量生産され安価になり、消耗品として無頓着に消費されるようになったことは、製造過程においても廃棄後もさまざまな問題の原因になっています。だからこそ、あまりにも身近過ぎて意識されない服から、世界とのつながりや及ぼしている影響を知り、自分事として考え行動していくことが大事だと思います。

「サステナブルなファッションを楽しむ」のは、エシカルファッションやフェアトレードファッションなど、環境や生産背景に配慮された服を安心して楽しむこと。それも大切なことですが、さらに視野を広げ、自分らしく行動に落とし込むために、タイトルを「サステナブルにファッションを楽しむ」としました。ファッション産業の抱える問題を知り、何ができるのかを一人ひとりが考えるヒントになれば幸いです。

2. ファッションにサステナブルが必要とされる背景

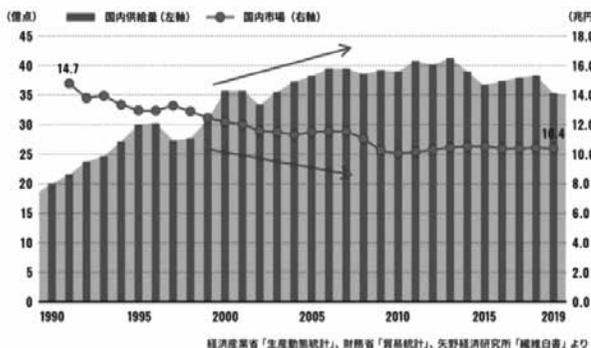
ファッション産業の実態の全体像や影響力を把握しづらい要因は、長く複雑なサプライチェーン（原材料・部品の調達、製造、在庫管理、配送、販売、消費までの一連の流れ）にあります。企画・販売する会社の国と生産する国が違うだけでなく、さまざまな商社を通じて調達される素材もパーツによって生産される国が異なるなど、グローバルに細かく分業化され全体像が把握しづらくなっています。この不透明さが各過程で起きる環境問題や人権問題の責任をあいまいにし、悪影響の拡大につながっています。

そんなファッション産業の特徴や環境負荷について大づかみできるのが、環境省が2021年4月に開設した「サステナブルファッション」のサイト^[1]。環境視点に特化しながらデータが分かりやすく提供されています。

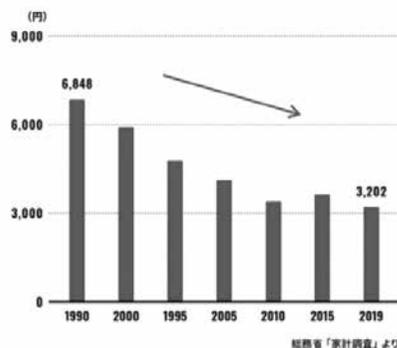
①安くて多いことは、いいことなのか？

ここ30年で供給量は増加傾向にあり、1枚当たりの価格が半額以下になっていることが分かります。流行を取り入れつつ、大量生産によって低価格に抑えたアイテムを短いサイクルで販売する「ファストファッション」が、2000年代半ばから日本に上陸した影響です。安価でファッションナブルなアイテ

国内アパレル供給量・市場規模の推移



衣服一枚あたりの価格推移



環境省「サステナブルファッション」のサイトより

ムが買えることは消費者にとって良いことのように思われますが、どんな課題があるのかを見ていきましょう。

②大量生産、大量消費、大量廃棄はワンセット

『大量廃棄社会 アパレルとコンビニの不都合な真実』（光文社、2019年）によると、2017年に日本だけで年間10億枚もの服が新品のまま捨てられている（焼却処分やプラスチックなどと固めて燃料化）という衝撃的な数値が挙げられています。調べでは供給量が38億枚なので、実に4枚に1枚が着られることなく捨てられていることとなります。

安価につくるためには、人件費が安い国の大規模工場で「大量生産」することが前提になります。たとえ売れ残ったとしても生産ラインをフル稼働して大量生産したほうが、ロスなく少量を何度か作るよりも、手間が省けて販売チャンスを見逃さず利益も高いという構造になっています。つまり、大量生産は大量消費を見越しつつ、大量廃棄も前提として行われるのです。

新しい服を購入してもらうためには、販売されたアイテムも短いサイクルで着なくなることが望ましい。環境省によると、1人当たりの年間購入数平均は約18枚、手放すのは約12枚、着用されない服（死蔵服）は約25枚。安さは買うのも捨てるのも、心理的なハードルを下げます。ファストファッションは、提供されるサイクルも早いですが、服の寿命も短い。おさがりやお直しを含め長く大切に着るよりも、新しいものを買ったほうが安上がりなため、気軽に買ってすぐに捨てるというライフスタイルが急速に広まりました。

③国内産業の衰退

「今着ている服を、どこで、誰が、どんなふうにつけてくれたか、考えたことはありますか？」とワークショップなどで着ている服のラベルを見てもらうと、いろいろな国の名前が挙げられる一方で、日本産がほとんどないことに驚かれます。ファストファッションに取って代わられ打撃を受けた国内アパレルブランドは、売上減をカバーして利益を確保するためには原価を下げる必要があります。安さを求めて海外で大規模生産されるようになりました。その結果、数十着の小ロットで対応できる国内工場は高い技術があっても価格で太刀打ちできないことが多く、仕事がなくなりました。日本で販売されている衣服の輸入割合（輸入浸透率）は、2018年には約

98%に達しています。1991年には約50%だったことを考えると、国内のアパレル産業を取り巻く状況がこの30年間で劇的に変わったことが分かります^[2]。

④過酷な労働環境

ビジネスである以上、利益や効率を求めることは大事ですが、いきすぎた利益・効率至上主義は、弱い立場の人々に犠牲を強めます。

そうした犠牲について取材した『ザ・トゥルー・コスト〜ファストファッション真の代償〜』（アメリカ、アンドリュー・モーガン監督）というドキュメンタリー映画が公開されたのは、2015年のことでした。制作のきっかけは2013年4月24日にバングラデシュの縫製工場ラナ・プラザで起きた崩落事故です。違法増築して弱くなった建物にひびが入り、数千台のミシンの振動で一気に崩壊。1,100名以上が死亡、2,500名以上が負傷、200名以上は行方不明という悲惨な事故でした。ここで作られていたのは、欧米に向けたファストファッション。価格を抑えるために、労働者が安全に働ける環境を整えるためのコストが削られていたのです。

この悲劇が二度と繰り返されないように、毎年4月24日前後の1週間を「ファッションレボリューション・ウィーク」として、ファッション産業の透明性を求めるキャンペーンが世界中で行われています^[3]。SNSで衣類についたタグの写真を#whomademyclothes（誰が私の服を作ったの？）と好きなブランドに問いかけたり、日本でも『ザ・トゥルー・コスト』の上映会やセミナーなどが開催されたりしています。

ちなみに前述の「サステナブルファッション」のサイトは、ファッションレボリューション・ジャパンからの提言がきっかけで、環境省がファッション産業における環境負荷について勉強会を開き、1年間の調査の成果としてまとめたものでした。

⑤地球環境に与える影響

ファッション産業は非常に環境負荷の高い産業です。環境省によると、原材料調達から製造段階（紡績・染色・裁断・輸送）までに排出されるCO₂は約9千万トン、水消費量は約83億m³、端材等排出量は約4万5千トン。それに加えて化学物質による水質・土壌・空気汚染が挙げられます。

販売され生活者の手に渡った後にも、環境負荷は続きます^[4]。

衣服に限らず、繊維業界の取り扱い素材で化学・合成繊維は年々急増しています^[5]。衣類の素材の約6割がポリエステルで^[6]、ファストファッションの台頭は安価に入手できる化学・合成繊維なくしては語れません。しわになりにくく、早く乾き、安い。良いこと尽くめようですが、化学・合成繊維はプラスチックです。石油からつくられる際に大量のエネルギーを消費しCO₂を排出しています。そして洗濯をするたびに抜け落ちた繊維（マイクロファイバー）は家庭から下水を通じて海に流れていき、その量は海洋に流れ着いたマイクロプラスチック全体の35%を占めると言い、生態系に影響を及ぼしています^[7]。それは海洋生物に限ったことではなく、食物連鎖を通じて人体にも摂取されています。

⑥古着の弊害

例えばガーナでは、欧米から再販や再利用を名目にチャリティなどで調達された古着が毎週1,500万着も出荷されています。そのうちの40%が品質が悪すぎて、到着した時点で価値がないとみなされ、そのまま埋め立てられているそうです。首都近くでは、服ゴミが高さ20メートルの山となっています^[8]。

また、世界でもっとも乾燥していると言われるチリのアタカマ砂漠にも大量の衣服が捨てられており、少なくとも39,000tに上ると言われています^[9]。

捨てられた服の素材の多くは化学・合成繊維です。生分解に約200年かかり、有害物質が発生し、大気や地下水が汚染されています。

また、途上国に玉石混合で大量に古着が輸入されることは、廃棄の負担や環境負荷が高まるだけでな

く、安価な古着の流通によって新品の服が売れなくなり、国内のアパレル産業の衰退を招いています。

自分は着なくなってもまだ着られる服が、必要とする人によって活用されるリユース自体は、尊いことです。災害時の緊急支援などで役に立つ場合もあるでしょう。ですが、それを大量消費と大量廃棄の安易な言い訳にしてしまうと、寄付したことで罪悪感は薄れますが、押し付けられた先の人々や環境への負担は増すばかりです。環境省によると、日本で手放される服の行方は、リサイクルが14%、海外輸出含むリユースが20%、残りの66%が焼却処分され埋め立てられています。生産背景にだけでなく、廃棄の在り方についてまで配慮することがファッションをサステナブルにするために不可欠です。

⑦通常のコットンが抱える環境問題・人権問題

ナチュラルなイメージのあるコットンですが、生産には大量の農薬と殺虫剤を使用します。コットンの畑は世界中の耕作面積の2.5%ですが、世界中の殺虫剤の約16%、農薬の約7%が使用されています^[10]。同じ農作物でも食糧と違い、直接口にするものではないため、安全性よりも効率が重視されることが原因です。当然、土壌や水質が汚染され、生態系が破壊され生物多様性が失われます。栽培する農家の人々の健康被害や、種子や農薬の購入のための経済的負担から貧困問題にもつながります。

深刻な児童労働の問題も挙げられます。インドのコットン畑では子どもが受粉作業や収穫作業のため長時間働き学校へ通えず、おとなよりも安い労働力として使われています。約40万人以上の子どもたちが働いており、その7~8割は女の子と言われています。背景には貧困、教育への無理解、ジェン



ガーナでの服ゴミの山

ダー不平等などさまざまな要因が挙げられます^[11]。

農業などを使わずに栽培し、付加価値を付けることができるオーガニックコットンの生産は、こうした問題に対する解決策の1つとなります。

3. サステナブルにする解決策

こうしたファッション産業の裏側を知ると、問題が壮大すぎて、自分1人がやろうがやるまいが関係ないと無力感に打ちひしがれてしまう人も多いでしょう（真面目な学生さんは、特に）。しかし、装うことは本来自己表現の1つで、楽しいこと。好きな格好をすることでエネルギーも得られます。ぜひファッションのもたらす喜びの側面にも目を向けてほしいです。

社会的な課題は、国際レベル・組織レベル・個人レベルの3つのスケールで分けて考えると糸口が見つけやすいと思います。個人として楽しみながらできることを続けること、同時並行で世界的な構造の変革に関心を寄せ情報をアップデートし、問題ではなく「解決の側」にいることが大事です。

SDGsのターゲット12「つくる責任 つかう責任」について考えるとき、「お買い物をするときに何を大事にしていますか？」という質問を投げかけることがよくあります。自分のお金を使って、大好きな商品やサービスを提供してくれる会社がずっと提供し続けられるように「応援」できるのが、お買い物。だからお買い物は、自分の望む社会をつくる未来に向けた投票行為だと言えます。生活者一人ひとりが「価格以外の価値基準」を持つことで、消費者としての力を行使してほしいと思います。

①新しいものを買うなら、人や環境に配慮してつくられたものを

人や環境に配慮した生産背景を持つものとして、フェアトレードとエシカルを紹介します。

フェアトレードは、直訳すると「公平・公正な貿易、取引」という意味です。フェアで対等なビジネスによって途上国の立場の弱い生産者や労働者の生活改善と自立をめざし、貧困問題と環境問題を解決しようとする活動です。働き手だけでなくその家族やコミュニティまで恩恵を得られるのが特徴です。フェアトレードというと「適正な賃金を支払う」ことだけが取り上げられることがありますが、大きな目的は「みんなが幸せに暮らせること」です。したがって、児童労働の禁止や男女平等、安全で健康的

な労働条件、環境への配慮など、ほかにもいろいろな指針があります。国際フェアトレードラベル (IFO) や世界フェアトレード連盟 (WFTO)^[12] など、フェアトレードを認証する国際的なネットワークがその基準 (指針) を設けています。

エシカルは倫理的・道徳的という意味の英語で、環境や人権、持続可能性などに配慮した取り組みを指します。直訳するより、一般社団法人エシカル協会^[13] が説明する「エいきょうをしっかりとカンがえル！」が分かりやすいと思います。フェアトレードも環境に配慮するオーガニックも、エシカルの一形態と言えます。他にも廃棄を減らすアップサイクルや動物の権利に配慮したアニマル・ウェルフェアなど、さまざまな価値観を包摂しています。国際的な認証や基準はありませんが、2021年10月に日本初の国内基準が一般社団法人エシカル推進協会によって発表されました^[14]。

今は認証の有無にかかわらず、リサイクルや環境負荷の少ない素材を使用したり、生産背景に配慮したブランドがいろいろあるので、自分の好みや関心のある領域で探す楽しみがあると思います。

②フェアトレード専門ブランド、ピープルツリーの活動

フェアトレードの指針を実行する具体的なアクションとして、ピープルツリーでは天然素材を用いた手仕事によるものづくりをしています。手仕事は味わい深い商品を生むだけでなく、経済的・社会的に不利な立場にある人々に、それぞれの能力を十分に活かせる仕事をもたらし、現金収入を得る機会をつくります。また大規模な設備投資や電力は不要となり、現地のインフラ事情に合わせるができます。

フェアトレードアイテムというとコーヒーやチョコ



コレートなどの食品が代表的な中、なぜピープルツリーがファッションに力を入れるかという、付加価値をつけやすいからです。同じ生地でもトップス、スカート、ワンピース、ズボンといった商品展開ができます。コットンを育てる人、糸を染める人、布に織る人、刺繍する人、模様を付ける人、縫製する人…というように多くの工程を経るので、現金収入を得る人の数を増やせます。

ピープルツリーは、原材料の調達から製品の販売まで、生産工程を透明化して「どこで、誰が、どんなふうに」つくっているのが分かるようにしています。ピープルツリーのホームページ^[15]にあるテキスト「Every product has a story. 毎日の暮らしに物語を」は、やりがいをもって働き、家族と一緒に幸せに暮らすつくり手たちに想いを馳せてもらいたいというメッセージです。

また、日本の市場で売れる魅力的な商品を企画することも重要な仕事です。売れることで生産者への発注の量も増えます。伝統的な技術や手仕事を生かしながら、日本の市場で求められる品質とデザインをつくっていくことが必要です。

そのために、生産者の能力向上もサポートします。一般的な商品企画では、売りたいものがまずあり、それをつくれる工場に競合見積もりを取り、金額や納期に合わせて発注されます。一方、ピープルツリーは支援したいパートナー団体がまずあり、そこで働く人たちを支援する商品企画をします。その団体のできることで、さらに挑戦してもっと高い技術が身につくこと、もっと高い価値で売れる商品をつくれるようになることをサポートします。テキスト上のやり取りだけではなく、スタッフがこまめに連絡を取り、(コロナ前は)定期的に現地を訪れてフィードバックや技術力向上のワークショップなどを行っています。

③手持ちのものを創意工夫で活かす

新しいものを買うばかりでなく、手持ちのものを活用するのもすぐにできる取り組みです。

2021年10月、ロンドンのファッションウィークの前に「ロンドンサステナブルファッションウィーク」が開催されました^[16]。ファストファッションの店の前に座り込み、「Stich it don't ditch it. 捨てるより縫おう」というメッセージと共にお繕いをするデモンストレーションです。安くてすぐに捨ててしまう服を買うのとは別の選択肢があることをア

ピールするもので、長く着る提案をしています。

2019年には環境保護運動組織「Extinction Rebellion」が、52週間新しい服を買わない「ファッションボイコットキャンペーン」を呼びかけました^[17]。これは気候変動に対してのアクションで、新たな素材やエネルギーを使って新たな服を生産するよりも、すでに地球上にあるものを活用しようという活動でした。リサイクルやアップサイクルされた衣類だけを購入したり、借りたり、交換したりするよう呼びかけるこの運動は、Z世代を中心に支持を集めました。今でも#fashionboicottoで検索すると、メッセージと共にさまざまなオシャレを楽しむ写真を見ることができます。

④ライフスタイルを見直す人が増えてきた

日本でも書店に行くと、手芸や洋裁のコーナーにパターンの付いた洋裁の本に加えて、「お直し」「お繕い」の本が以前より増えました。かつての「やりくり」のイメージではなく、自分でひと手間を加えることで愛着を持ってモノと向き合うライフスタイルが再評価されてきている現れだと思います。形を変えるような大掛かりなりメイクをしなくても、ワッペンやレース、布テープをプラスしたり、刺繍をしたり、コーヒーや紅茶、環境に配慮した市販の染料で染め直したり。SNSなどでもアイデアやノウハウを見ることができますが、家庭科実習で学べるのが大いに役に立つのではないかと思います。

自分でお直しすることで愛着もわき、1枚の洋服をつくる労力の一端が実感でき、簡単に使い捨てていいものではないと、服との向き合い方も変わるのではないのでしょうか。

4. 最後に

社会的な活動を続けていくコツは、まず自分が楽しんで幸せであることだと思います。我慢や犠牲のイメージがつきものですが、それでは続かないものです。フェアトレードやオーガニックなどのエシカル商品は、大量生産された安価な商品と比べれば価格が高いことが多いため、余裕のある意識の高い人だけのものと思われがちです。しかし、影響をしっかりと考えたお買い物は、お金の使い方やモノとの向き合い方、価値観を反映した、誰にでもできる具体的な行動の1つだと思います。

安さからとりあえずの無難なものをたくさん持つより、自分の五感や価値観を大切に選び抜いたとっ

ておきの1枚を持つ豊かさ。ファッションに限らず なのか、見直すところから始まるのではないでしょ
「サステナブル」は、自分にとって何が本当に幸せ うか。

【参考資料】

- [1] 文中の「環境省による」データ引用はすべてこちら
環境省「サステナブルファッション」 https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/
- [2] 経済産業省（繊維産業の現状と経済産業省の取組，2020年）
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/fiber/pdf/200129_2seni_genjyou_torikumi.pdf
- [3] Getty のサイトをご参照ください。
<https://www.gettyimages.co.jp/search/more-like-this/595258618?family=editorial&assettype=image&phrase=%E3%83%80%E3%83%83%E3%82%AB%E8%BF%91%E9%83%8A%E3%83%93%E3%83%AB%E5%B4%A9%E8%90%BD%E4%BA%8B%E6%95%85>
- [4] ファッションレポリューション・ジャパン <https://www.fashionrevolution.org/asia/japan/>
- [5] テキスタイルエクステンヂ 2021年レポート p.8
https://textileexchange.org/wp-content/uploads/2021/08/Textile-Exchange_Preferred-Fiber-and-Materials-Market-Report_2021.pdf
- [6] 「ファストファッションを、もっとスローに」（グリーンピース，2016年）p.4
https://www.greenpeace.org/static/planet4-japan-stateless/2020/10/f3bca316-20201028_tff_jp.pdf
- [7] 洗濯時にマイクロプラスチック放出を防ぐ，6つの方法. VOGUE 2021年3月9日
<https://www.vogue.co.jp/change/article/this-weeks-sustainable-tips-microplastics-laundry>
- [8] 「Dead white man's clothes」
<https://www.abc.net.au/news/2021-08-12/fast-fashion-turning-parts-ghana-into-toxic-landfill/100358702>
- [9] 「砂漠を汚染する『ファストファッション』廃棄した古着から有害物質 チリ」2021年11月27日
<https://www.afpbb.com/articles/-/3377511?page=2>
- [10] 特定非営利活動法人日本オーガニックコットン協会「どうしてオーガニックコットン?」
<https://joca.gr.jp/>
- [11] ACE「インド・コットン生産地の児童労働」 <https://acejapan.org/cotton/childlabour>
- [12] WFTO（世界フェアトレード連盟：World Fair Trade Organization）とは
<https://www.peopletree.co.jp/about/certify.html#fto>
- [13] 一般社団法人エシカル協会 <https://ethicaljapan.org/>
- [14] 一般社団法人エシカル推進協議会「JEI エシカル基準を公表いたしました」2021年10月13日
<https://www.jeijc.org/ethical-standard/20211013-1/>
- [15] ピープルツリー <https://www.peopletree.co.jp/>
<https://www.peopletree.co.jp/about/からフェアトレードやピープルツリーの活動についてまとめた「会社案内」がダウンロードできます。>
- [16] 「捨てないで縫おう」ファストファッションに反対し路上で縫いもの AFP BB NEWS 2021年10月5日
<https://www.afpbb.com/articles/-/3369277>
- [17] 「52週間，新品の服は買わない」：地球と未来を優先する若者たちに広がるファッションボイコット 2019.09.25 WED 08：00
<https://wired.jp/2019/09/25/extinction-rebellion-collective-yearlong-boycott-buying-new-clothes/>